



歩こうかい 4 月例会（通算 365 回）



花を愛でる② 旧東海道伊勢国をあるく⑤
桑名七里の渡しと九華公園の桜

令和 3 年 4 月 1 日（木）

天気：晴れ ・参加者 8 名 <12,000 歩>



折しも「旧東海道をあるく」から新シリーズ「花を愛でる」へのバトンタッチとなった例会は、コロナ禍で昨年 4 月中止となった一年越しのコース。記録的に早い桜の開花で、当初の予定を 1 週間程早めての実施となった。気温は屋前には初夏を感じさせるほど上がったが、時折吹く風は爽やかで快適な一日となった。近鉄益生駅に 9 時 40 分集合。10 分程で旧東海道に入ると、矢田立場跡(やたのたてばあと)に着く。この辺りが桑名宿西の出入口で、七里の渡しまで約 2.5Km 街道が続く。しばらく歩くと十念寺に着く。ここには戊辰戦争で函館五稜郭に立てこもり、降伏の後藩主の代わりに全責任をとって割腹した、藩士森陳明(つらあき)の墓がある。



街道沿いにある多くの寺はどこも桜満開。



30分程進んで桑名市博物館に着き、展示の桑名藩関係資料で歴史探索。

さらに歩いて青銅の鳥居が有名な春日神社(桑名宗社)に着く。8月の石取祭は春日神社の祭りである。内堀を渡ると九華公園(桑名城址)に到着。約1,000本ある桜は満開で、園内には露店が並び、多くの家族連れが楽しんでいた。歩こうかいの皆さんも桜に囲まれ楽しく昼食。



初代藩主・本田忠勝の像に立ち寄り、通り井、問屋場跡、舟会所後を経て七里の渡し場に着き、蟠龍櫓(ばんりゅうやぐら)をバックに記念撮影。桑名城には51の櫓があり、蟠龍櫓は東海道を行き交う人達に航海の守護神として親しまれ、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」にも描かれている。



桑名宿東の出入口にある脇本陣駿河屋跡(現・料亭山月)大塚本陣跡(現・船津屋)を見ながら、揖斐・長良川河畔に出ると、六華苑(旧諸戸清六邸)に着く。鹿鳴館を設計した「日本近代建築の父」ジョサイア・コンドルが手がけた洋館と和館が一体となった館内を、ボランティアの方の説明を聞きながら見学。



喫茶コーナーで歓談、庭園をしばらく歩いた後、江戸時代中期の困難を極めた治水工事で亡くなった、薩摩義士 24 名が眠る海蔵寺(かいぞうじ)に立ち寄り、ゴールの桑名駅で 15 時解散する。



記：奥村 正忠